

R4開始

よねざわし 米沢市(山形県)

主な品目

- 水稲
- ♣ 野菜(たまねぎ等)
- ◆ 豆類(大豆)



実施体制

有機農業実践者、市内加工業者・流通業者、市内飲食業者、消費者団体、山形おきたま農業協同組合、農機具メーカー、学術機関、米沢市 等

面積情報

有機農業取組面積: 37.7ha
耕地面積に占める割合: 0.9%
(令和5年度時点)

1 背景・課題

近年の有機食品に対するニーズの高まりに対応し、有機農業の更なる発展を目指して推進してきたが、既存農家だけでは拡大面積に限界があり、新規栽培者の確保が必要。また、農家の経験や勘による栽培が中心であるため栽培技術の確立が必要。販売面に関しても、価格が慣行農産物に比べ高い傾向にあり、市場流通では扱いにくいいため、販路を開拓していく必要がある。

2 成果目標

- 有機農業の取組面積の拡大(米・大豆・野菜)
R3年度 12ha → R9年度 42ha
- 有機農産物の販売数量の拡大
R3年度 56.8 t → R9年度 207 t
- 有機農業に取り組む農業者数の増加
R3年度 13人 → R9年度 20人

3 主な取組内容

生産

- BLOF理論に基づく栽培実証圃場設置及び研修会
- 栽培研修受入ページ掲載
- 農業用機械の実演会



学校給食で有機野菜(里芋)を提供した。また、有機栽培里芋のチラシを児童生徒に配布し、有機農産物への理解を深めてもらった。

加工・流通・消費

- 学校給食への有機米、有機野菜の提供
- オンライン商談会の開催
- ECサイト研修会の開催



有機農業者がBLOF理論に係る実践的な知識等の学びを目的に水稲と野菜の実証圃場を設置し、研修会を開催した。



有機栽培の課題である生産コスト(労力)の削減にむけて省力化機械の実演会を開催した。

4 これまでの成果

小中学校の学校給食に有機栽培のお米のほか、新たに野菜を試験的に導入することができた。

【学校給食への有機野菜の導入】
R3年度 0回 → R6年度 1回

5 今後の展望

有機取組面積の拡大を図るため、新規栽培者の受け入れ、学校給食への有機農産物の提供に継続して取り組む。さらに、地域内流通での消費拡大に向けて検討を進めていく。